

「新バスケの街のしろ推進計画」に代わる新計画策定について（抜粋）

平成 22 年 10 月

1 はじめに

現在の「新バスケの街のしろ推進計画」は、平成 15 年 3 月に策定したもので、平成 18 年 3 月の合併後も引き継がれ、策定から 7 年以上が経過した。

その間、市の最上位計画である能代市総合計画を平成 20 年 3 月に策定しており、社会経済情勢や市民ニーズなども変化してきている。

中でも、本市のバスケットボールを取り巻く状況は、平成 19 年の秋田わか杉国体の開催や平成 22 年の秋田ノーザンハピネッツの bj リーグ参入、平成 23 年のインターハイ開催など、ここ数年で大きく変化してきており、これを機に改めて「バスケの街づくり」のあり方を見直す必要があることから、新たな計画を策定しようとするものである。

2 策定にあたっての基本的な考え方

地域のまちづくりは、行政サービスだけで実現するわけではなく、市民や各種団体、事業者など、様々な主体（担い手）の協力・協働があって実現するものである。そのためには、地域全体で目標を共有すること、各主体が役割を分担すること、共有した目標に向けて能動的に取り組めることが必要である。

さらに、この計画では、バスケットボールに特化したまちづくりに大きく関係する各団体等が推進役となること、そして、相互に連携を図ることが重要となってくるため、こうしたことに留意して、策定を進めることとする。

また、策定にあたっては、現行計画の検証やこれまでの各主体の取組状況などを明らかにするとともに、計画の実行段階においても、計画の進み具合を点検しながら継続的に連携を図っていくことができるよう配慮するものとする。

3 策定にあたっての 3 つの視点

(1) 「競技力向上」の視点

- ・能代工業高校バスケ部を中心としてハイレベルでいられるように。
- ・地元出身選手が活躍できるように。

(2) 「地域活力」の視点

- ・「バスケの街づくり」を交流人口の増加につなげられるように。
- ・「バスケの街づくり」を地域産業の発展に結びつけられるように。

(3) 「市民文化」の視点

- ・市民や来訪者がバスケに親しみ楽しめるように。
- ・「バスケの街」として能代らしさがあり市民が誇りに思えるように。

#### 4 計画の策定体制

##### (1) 関係者等で構成する会議の設置

現在の市の要綱にある「バスケットの街のしる推進懇談会」は、現行計画の策定及び推進のための役割を担ってきたが、現行計画の見直しとともに一定の役割を終えたと考えられることから、この要綱の廃止を前提に、新たに関係者等で構成する「(仮称)バスケットの街づくり推進会議」を設け、計画の協議を進めていくこととする。

本格的な協議に入る前に、平成22年度には主要な関係者による準備会を設けて、計画の方向性などを検討し、平成23年度では広く関係者等を加えた上で、本格的な協議を進めるものとする。

##### (2) 庁内横断的な会議の設置

庁内横断的な会議として「バスケットの街づくり庁内検討会議」を設け、部長会議においては計画全体の調整・総括、次長会議では必要に応じて各部の部内調整を行うものとする。

また、策定にあたっての3つの視点である「競技力向上」「地域活力」「市民文化」に関連が大きい各課等による「関係課長及び担当者会議」を設けて計画の検討を進めるものとし、必要に応じてさらに課等を加えるものとする。

特に、「バスケットの街づくり」全般を担当する市民活力推進課と「スポーツのまちづくり」全般を担当するスポーツ振興課が中心となって、連携を図りながら策定を進めるものとする。

#### 5 策定に向けた取組

- (1) 先進地視察・事例収集
- (2) 各界各層からの意見聴取
- (3) バスケットの街づくりの啓発・PR
- (4) 外部団体・機関との交渉・連携

#### 6 策定スケジュール (省略)

平成 23 年度 バスケットの街づくり新計画の策定方針について

## 1. 計画策定の基本方針

新計画の策定にあたって、これまで現行計画の検証や新計画の方向性の検討を行ってきました。

新計画は、今年度開催する「能代市バスケットの街づくり推進会議」での協議を踏まえて策定します。会議では、準備会での検討結果をベースに協議を進めます。

協議にあたっては、慶應義塾大学 SFC 研究所の基礎調査結果をはじめ、各種基礎資料を参考とします。

## 2. 計画の構成イメージ

### (1) 計画の名称

(仮称) 能代市バスケットの街づくり推進計画

### (2) 計画の期間

24 年度から 33 年度までの 10 年間 (※「連携して実現化を図る取組」は 29 年度までの 6 年間)

### (3) 計画の構成

3 層で構成

#### ① 街づくりの ビジョン (基本目標)

→ たどり着きたい地域の姿

(例: ~が実現しているバスケットの街能代)

#### ② 街づくりの ゴール (到達目標)

→ ビジョンを実現するために達成したいこと

(例: 街なかにバスケットの光景があふれていること)

・ できたかどうかを確認する指標「めざそう値」を設定します。

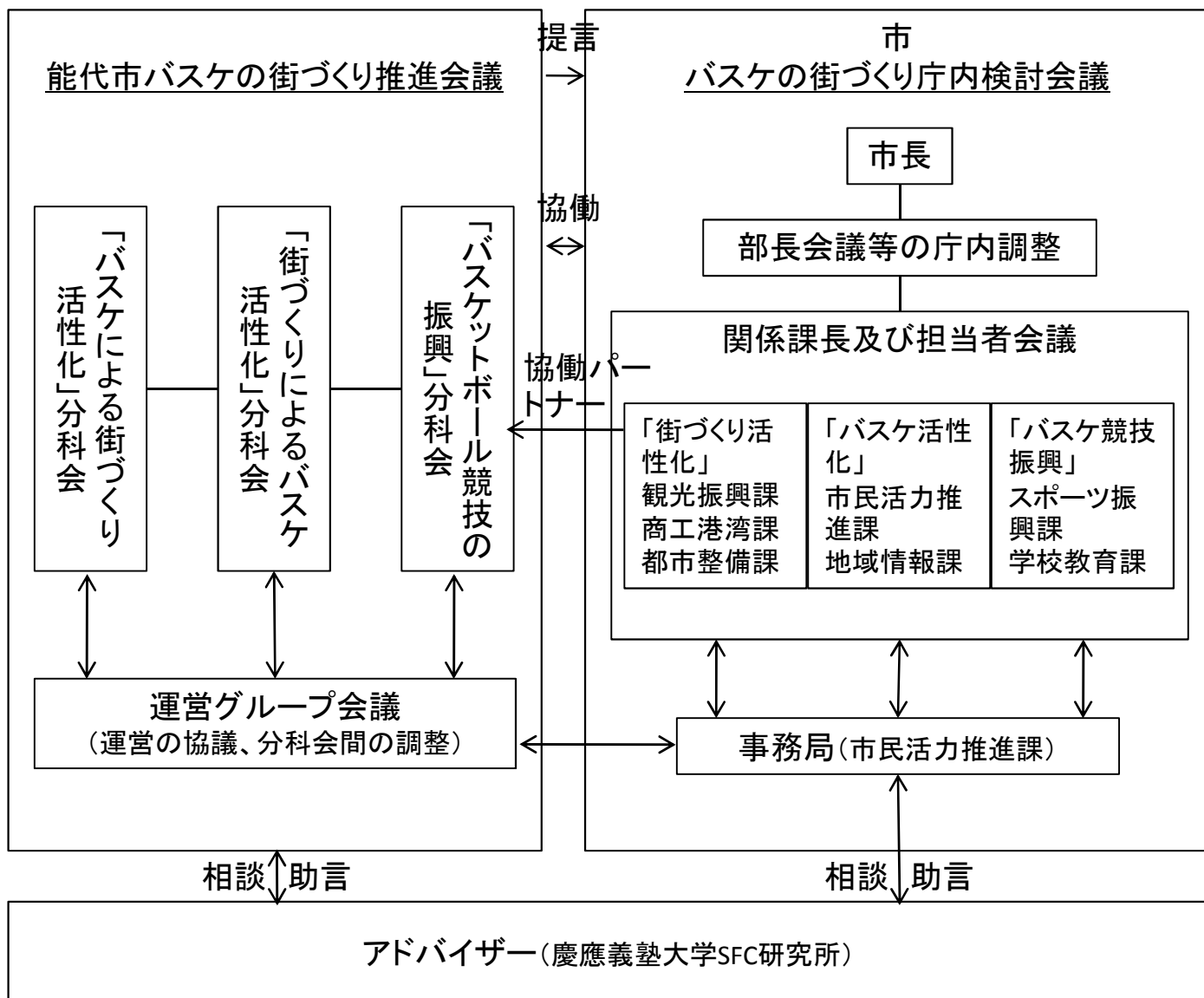
#### ③ 街づくりの 取組 (すること)

→ ゴールに向かってそれぞれが取り組むこと

(例: 地域、団体、関係者、行政)

・ 特に重要なものは連携して取り組んでいくため、「連携して実現化を図る取組(※)」を設定します。

### 3.計画の策定体制



#### 4.計画策定フロー

